

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所
発行責任者 伊藤 隆 幸
編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会
南会津郡小中学校長協議会

『道徳教育を生かすには』

南会津町教育委員会教育長

星 英 雄

源流を旅立った純粋な水は、流れの中でいろいろな物質を吸収し、やがて海へと注ぐ。子どももこれと似ており、成長という川の流れの中で、多くの人との出会いや体験、情報などから様々な知識を吸収し、やがて社会という海へ流れ出す。大きな違いは、水は物質の善し悪しに関係なく汚れた物質でも吸収するが、子どもは物の善し悪しを判断して吸収する力を持つことである。その力を育成する場の一つが学校であり、中でも道徳教育への期待は大きい。一昔前、日本は公害大国で川や海は汚れていた。それを改善したのは、そのような環境を作り出した人間である。汚れに強い水を作り出すことは難しい。そこで汚れに弱い水のために、工場や家庭が排水をきれいにしたり、川へのゴミ捨てをやめたりして、川の環境改善に努めたからである。現在、心配されている子ども

を取り巻く環境も、公害と同じように人間が作り出した物である。ならばそのような環境に、正しく対応できる人間を育成することも大切だが、水を守るために川の環境改善に努めたように、今の環境を生み出した人間が、子ども達を取り巻く環境の改善に努めることこそが重要である。マスコミや企業などには、工場が煙や排水をきれいにしたように、発信する情報や販売する製品について、十分に精査することを求めたい。身近な大人にも子どもの前で悪行を見せたり、人の悪口を言ったりしないなど、すぐにでもできる手立てに取り組んで欲しい。

「子どもは大人の鏡」という言葉を耳にする。この言葉の意味を社会全体が理解し行動するなら、道徳教育は更に生きてくると確信する。

『南会津は良いところ・・・』

福島県教育庁南会津教育事務所次長（総務）
兼総務社会教育課長

佐 々 木 孝 一

昨年4月に南会津教育事務所に赴任して、早、10ヶ月になりました。10年前の平成18年から3年間の勤務以来、2度目の南会津勤務です。

前回もそうでしたが、南会津は仕事がしやすく、とても良い環境の中で過ごしています。

さて、南会津の学校は、神奈川県に匹敵するエリアに点在していて、駒止峠や中山峠を越える出張はちょっとした旅行気分が味わえます。ありがたいことに、次長という立場上ほとんど運転する必要がないので、車窓からの風景を楽しんでいます。前回の勤務では、自然保護等の業務を担当していたことから、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山、浅草岳や三本槍岳の山々や尾瀬、駒止湿原等々へ仕事で行く機会があり、その自然の豊かさに魅了されてしまいました。昨年9月の大雨により駒止湿原への道が閉ざされ行けなくなってしまったのはとても残念でな

りません。ところで、私は何故か総務社会教育課長を兼ねていることから公民館活動や放課後子ども教室の様子に触れる機会がありました。そこでは、真剣に取り組む職員・指導員等の方々に会い、支援機関としてより一層頼りになる教育事務所でありたいと強く思いました。

新しいことを覚えることが非常に困難な頭ですが、南会津の教育行政進展のため頑張りたいと思います。

（ちょっと笑いを 「イトイ新聞」より）
ボケの花を母に分けてあげようと電話して
「ボケいる??」と言ったら、
「ちょっと待ってね」と言ったあとに
父が「もしもし」と言った。

・・・こうならないように、頭の体操に気合いを入れるつもりが、空回りする今日この頃です。

南会津がつむぐ 新たな学校教育！ 郷土を愛し、夢や希望をもってともにたくましく生きる子どもの育成

確かな学力

E S Dの視点に立った総合的な学習の時間
只見町立朝日小学校

本校では、E S D（持続可能な開発のための教育）の視点に立って総合的な学習の時間に取り組んでいます。以前から、只見町のよさを体験する地域学習である「只見学」を中核とする学習を進めていましたが、そこに、E S Dの視点を取り入れ、各教科・各領域との関連を整理し、年間の指導計画を作成しました。

「只見学」を中核とする総合的な学習の時間での学びをより豊かにするために、以下のことに気をつけて取り組んできました。

- 児童の思いや願いをもとに学習課題を設定し、自分や友達と解決方法を考えながら、課題解決に取り組む。
- 各教科との関連を考え、学習したことを活用できるような学習内容になるようにする。（タブレットを活用したプレゼンテーション）
- 地域の施設を活用し、関係機関との連携を図る。
- I C Tの有効な活用を図る。



その結果、課題を解決しようと児童が主体的に学ぶ姿が多く見られるようになり、その姿勢が学力向上につながってきました。

健やかな体

食育・健康教育の充実
南会津町立松沢小学校

本校は、子どもたちの心身の健やかな成長の基礎となる『食』の重要性を認識し、食育を教育推進の重要な柱の一つとして、教職員の共通理解のもと、日常の給食指導の充実に努めてきました。さらに、家庭・地域の協力を得ながら、基本的な生活習慣の定着と望ましい食生活の実践とを目指し取り組んできました。

《主な取組》

- 1 ねらいを明確にした給食指導
 - 児童の実態、課題に基づいた、栄養教諭を活用した計画的な給食訪問
 - 全職員での放送資料「給食アラカルト」を活用した毎日の食育の実践
 - 各担任、養護教諭と栄養教諭の連携による食と健康指導
- 2 栄養教諭とのT・T指導による食育授業の実施
- 3 家庭、地域との連携及び普及啓発
 - 保護者、祖父母を対象とした食育講話（2回）
今後、さらに家庭・地域との連携を充実させながら、食育の継続した取組と日常化を目指していきたいと考えています。



《教職員による食育》

特別支援教育の充実

全校で取り組む特別支援教育
下郷町立榎原小学校

本校では、特別支援学級があることを活かして、特別支援学級の子どもと通常学級の子どもが共に学ぶ機会を大切にし、「楽しい学校」となるように日々取り組んできました。

特別支援学級の子どもたちは、学校行事や児童会活動など全校生と一緒に活動をしたり、通常学級で数多くの交流学习をしたりしています。特に、教育効果を上げるためには特別支援学級の子どもの指導だけを行うのではなく、周りにいる子どもたちも育てていくことが大切ではないかと考えています。例えば、



《学習発表会で一緒に演奏》

「Aさんは言葉で伝えるのが苦手だから少し待ってあげてね。」など具体的に指導をすることにより、互いに交流を図ることができるようになってきました。また、教職員の研修の場として特別支援学校から講師を招き、発達障がいについて疑似体験を取り入れた研修を受けたり、巡回相談を定期的実施し、より具体的に指導を受けたりしています。さらに、保護者の思いや願いを十分に聴く機会が大切と考え、担任だけでなく校長や教頭も一緒に話し合う機会を設け、共通理解を図ってきました。これからも「楽しい学校」となるように特別支援教育を要にして、子どもたちのために取り組んでいきます。